

荒川の旧流路

～今では生き物の宝庫～

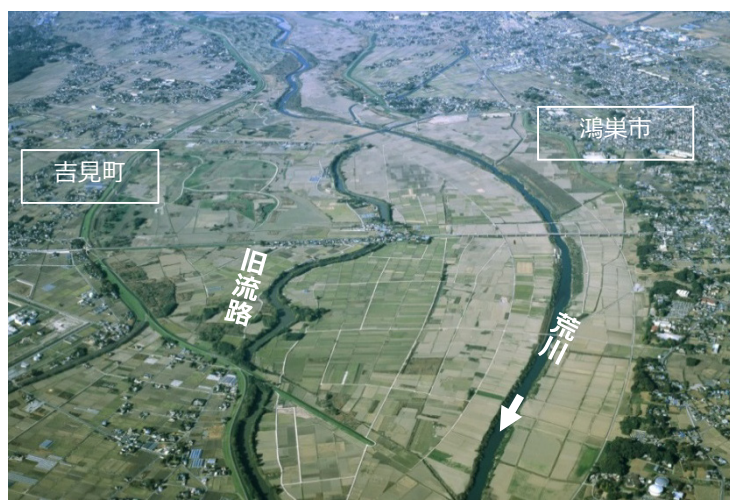
荒川の中流域には、旧流路に由来する池や湿地といった自然が比較的多く存在しています。



荒川の旧流路（太郎右衛門橋から下流を望む）



旧流路が池となっている太郎右衛門地区（河口から50～54km付近）



広い河川敷に旧流路が残る（河口から59km～63km付近）

荒川の旧流路

現在の荒川の直線的な流路の一部は、1918（大正7）年に着手した上流部の近代改修によって形づくられたもので、それ以前は蛇行を繰り返す流路となっていました。かつての流路は、現在の市町界に名残りをとどめるほか、広大な河川敷等の一部には、旧流路の蛇行している状況が残っている場所があります。

荒川中流域には、旧流路に由来する池や湿地といった自然が比較的多く点在しており、かつての荒川の自然を今にとどめ、他に代わるものがない環境をつくりだしています。こうした現地の保全にあたっては、水辺から周辺の草地や林にかけての自然のつながりをそのまま残すことや、流れから孤立した閉鎖的な環境のため魚などを放流しないことが重要です。

▶ 荒川太郎右衛門地区

太郎右衛門自然再生地の旧流路は、かつては荒川の本流でしたが、荒川上流部改修により約70年前に捷水路が整備され、本流は直線化し、残存した旧流路には、荒川河道内に遊水効果を高めるための横堤が建設されたことにより、本川から切り離された3つの止水環境（池）となりました。

太郎右衛門自然再生地は、荒川の堤外地（堤防の川側）にあって緑豊かな地域であり、3つの池を中心とした湿地環境が残存しており、湿地環境を改善するための自然再生事業が進められています。



太郎右衛門自然再生地

▶ びん沼川

びん沼川は、荒川上流部改修によって荒川堤防で切り離された、かつての荒川の流路です。その名残で、現在の荒川の右岸側にあるびん沼川までがさいたま市とされており、富士見市との境になっています。

また、びん沼川は新河岸川とつながっており、新河岸川の洪水をびん沼を通じて南畑排水機場で荒川に排水しています。

このようにびん沼川は荒川と切り離されており、堰き止められて出口のない瓶のような沼ということで「びん沼」と呼ばれるようになりました。



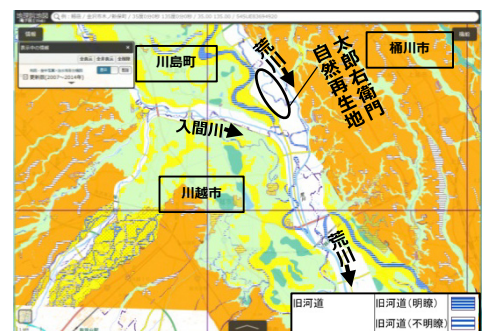
びん沼川

コラム 国土地理院の治水地形分類図

治水地形分類図は、治水対策を進めることを目的に、国が管理する河川の流域のうち主に平野部を対象として、扇状地、自然堤防、旧流路、後背湿地などの詳細な地形分類及び河川工作物等が盛り込まれた地図です。

「治水地形分類調査」は、河川堤防の立地する地盤条件を包括的に把握し、さらに詳細な地点調査を行うための基礎資料を得ること、および氾濫域の土地の性状とその変化の過程や地盤高などを明らかにすることを目的として、1976（昭和51）年度から1978（昭和53）年度にかけて実施された調査です。

この地図から、表面的には明瞭でない区画もある旧流路の位置を、正確に把握することができます。



国土地理院の治水地形分類図

アクセス

びん沼川

交通：東武東上線「鶴瀬駅」下車、東口から「老人センター」行きの循環バス乗車約20分、「びん沼」下車

住所：埼玉県富士見市東大久保

荒川太郎右衛門地区

交通：JR川越線「川越駅」下車、東口5番乗り場より東武バス「桶川駅行」「山ヶ谷戸」下車、徒歩約15分

住所：太郎右衛門橋下流約4km 区間（約50.4km～54.0km）



びん沼川



太郎右衛門自然再生地

